

平成30年度

学校が変わる！「ポジティブな行動支援」事業



三庄小学校

三庄っ子チャレンジプロジェクト

三庄小学校 校内推進リーダー 逸見ゆみ子

アドバイザー 大阪教育大学 庭山和貴 先生

三庄小学校の実態と教師の願い

子どもたちの実態

基本的に、明るくて、素直で、真面目。
決められたルールを守れる子が多い。

一方で…

自分から進んで・考えて行動することが苦手



教師の願い



**進んであいさつができるようになってほしい
相手の気持ちを考えて言葉をかけてほしい**



「自分から気持ちの
よいあいさつをしよう」
の取り組み事例



取り組みの進め方①～あいさつ～

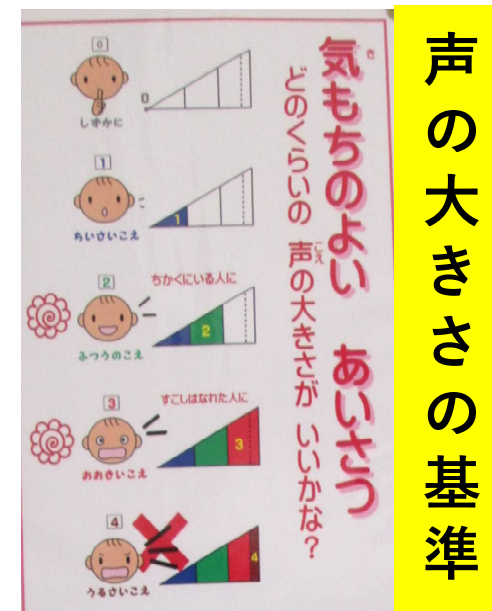
全学年「自分から気持ちのよいあいさつをしよう」

○取り組みの手立て

- ・全校朝会であいさつの良い例と悪い例について教員がロールプレイする
- ・学級であいさつの練習をする
- ・「合い言葉」を浸透させる
- ・あいさつ運動をする

○取り組みに使った支援教材

- ①声の大きさの基準を視覚的に示す
- ②立ち止まってあいさつができるように、各教室の入り口に足型を設置する



取り組みの進め方②

○記録の取り方

記録対象：三庄小学校 **1～6** 年生の登校時のあいさつ

記録頻度：月に **2～4** 回程度

記録内容：あいさつについて①～③の項目で人数を数える

①自分からあいさつした

②あいさつをしたら返してくれた

③あいさつをしなかった

記録者：三庄小学校 **6** 年生（**6** 名）

○フィードバック

- ・全校朝会で学校長に褒めてもらう
- ・結果のグラフを掲示する



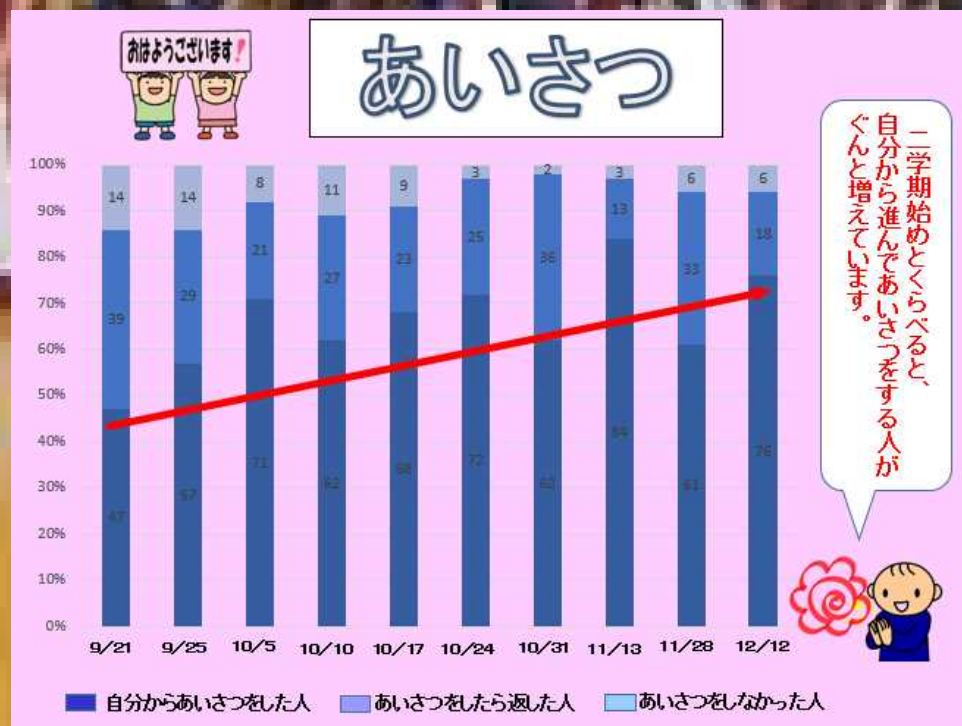
登校時の「あいさつ運動」の様子



足型で立ち止まってあいさつをする様子

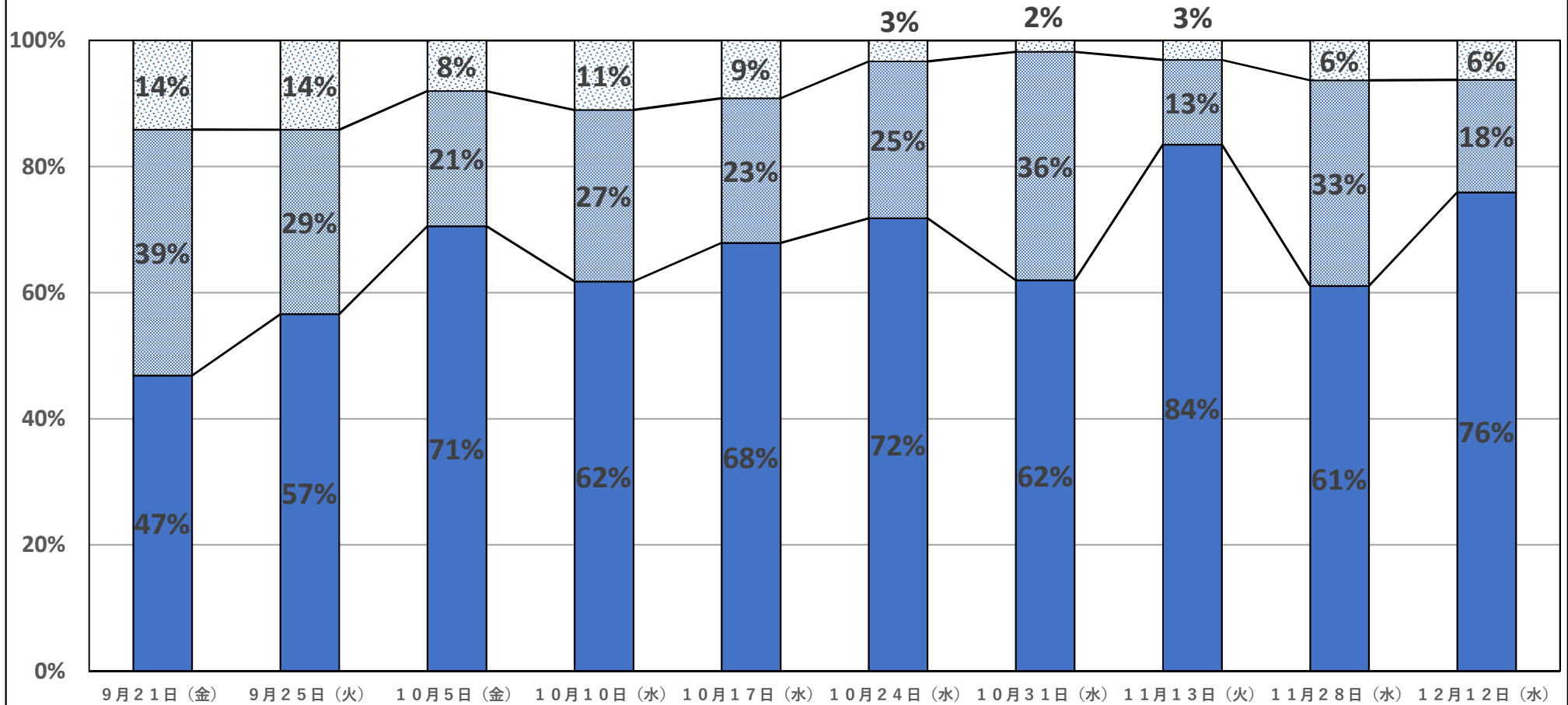


取り組みの成果を校長先生からフィードバック



結果

登校時の挨拶の割合



■ A : 自分から挨拶をした人 ■ B : 挨拶をしたら返してくれた人 ■ C : 挨拶をしなかった人

取り組み後の変化

○教室でのあいさつがよくなった

→教室前に足型を置いたことで、立ち止まって気持ちのよいあいさつをしようとする児童が多くなった。中には、教室移動の際に、足型のところで止まってから、「行ってきます」というあいさつをする児童もいた。

○すれ違いざまのあいさつが気持ちよくなった

→廊下ですれ違う際のあいさつが、適度な距離から、ちょうど良い声の大きさに、できる児童が増えてきている。

(教頭先生より)



「友だちと話をする時は、
『あったか言葉』で伝えよう」
の取り組み事例



取り組みの進め方①

全学年「友だちと話をする時は、
『あったか言葉』で伝えよう」

○取り組みの手立て

- ・ 帰りの会で、友だちから
言ってもらった『あったか言葉』
を紹介する
- ・ 「あったか言葉」を教室や廊下に
掲示する

○取り組みに使った支援教材

- ・ 『あったか言葉』を書く葉っぱを
教室に設置する
- ・ 葉っぱを掲示するための
「あったか言葉の木」を児童玄関前に設置する



取り組みの進め方②

○記録の取り方

記録対象：三庄小学校 **1～6** 年生

記録頻度：月に **2～4** 回程度

記録内容：①昼休みに『あったか言葉』を言ってもらった
児童数を，挙手してもらって数える

②『あったか言葉』の内容を記録する

記録者：三庄小学校教員

○フィードバック

- ・朝会で『あったか言葉』の内容や使えた回数をグラフ化して，全校朝会で学校長に褒めてもらう
- ・帰りの会で『あったか言葉』を学級全体に紹介する



「あったか言葉の木」に葉っぱを貼る様子



結果（あったか言葉の木 12月）



結果（あったか言葉の内容）

「あったか言葉」の木

昼休みに友だち
二人が「いっしょに絵をかこう
「いっしょに本もろう」といってくれ
うれしかったです。

そうじのじかんに
「おもしろいどうぞ」と
いってくれました。

大じょうぶ!!
ぞったいできるよ!!
「しっほいはせいり
のちとたからね!

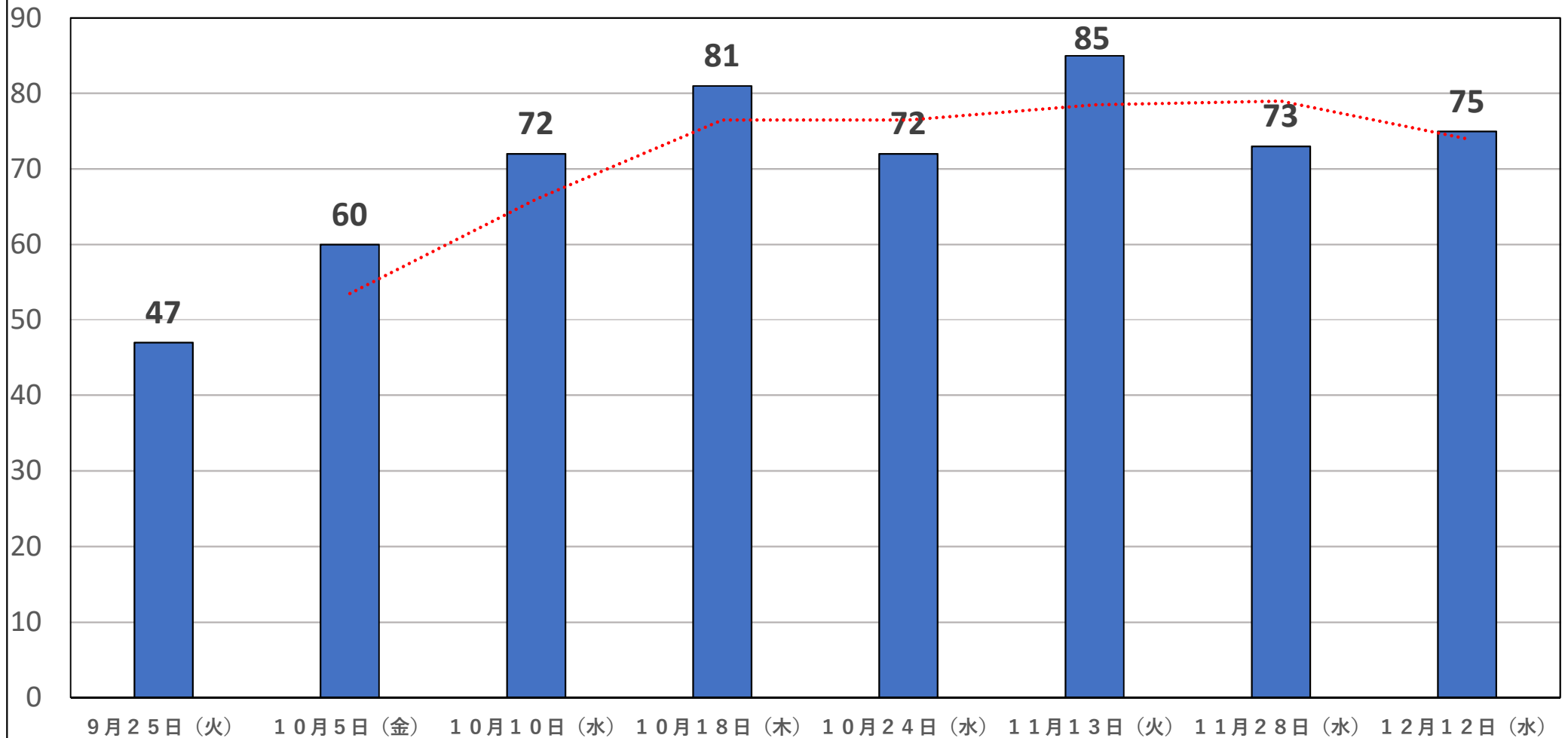
まよ、みる休みに、
「いっしょにあそぼう」
と言ったら、
「いいよ」と
いってくれました。

「あったか言葉」
みんなの笑顔が
いっぱい

結果

(人)

昼休みに『あったか言葉』を言ってもらった児童の人数（1～6年生）



取り組み後の変化

○自然に出る言葉かけが変わってきた（児童）

→これまでは、作業や活動が遅れている友だちに対して、「早くしなよ」「遅いよ」などの言葉かけが見られていた。取り組み後は、「頑張れ！！」と応援する言葉かけに変わった。

○言葉を意識して、関わるようになった（教員）

→教員自身も、『あったか言葉』を意識して関わるようになったことで、子どもたちへの接し方が変わった。また、どの学年からも『あったか言葉』を取り入れて良かったという意見が多く上がった。



三庄っこプロジェクト 成功のポイント

○全学年で協力して進められたこと

→プロジェクトの趣旨をみんなが理解し，積極的に実践できたことが大きい。話し合いの場においても，ポジティブな意見を全員で出し合うことができた。三庄小学校教員のチームワークの良さがポイントの**1**つ。

○それぞれの学級のカラーを大切にしながら，プロジェクトを進められたこと

→取り組みの概要や支援ツールなど，大まかな方向性を共通理解した後は，各学級の裁量で実践を進めた。細かい部分まで内容を指定せず，難しいと感じた目標は途中変更もしながら，柔軟に進められたことがポイントの**1**つ。

